

岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	2008 技術講演会	(CPD 番号 20-15)
主催	岩手県技術士会	
日時	平成 20 年 11 月 19 日 (水) 13:30 ~16:00	
場所	盛岡市 サンセール盛岡	
参加人数等	65 人(講師 2 名を含む)	

活動内容

衛星画像データ“だいち”とその事例紹介 — 岩手・宮城内陸地震を例にして —

今回の 2008 技術講演会は、「衛星画像データ“だいち”と岩手・宮城内陸地震での事例紹介」を 2 名の講師をお招きしてご講演いただいた。“だいち”データは、JAXA(宇宙航空研究開発機構)で販売している衛星データであり、その画像処理化された図面の紹介およびそれらの画像を利用した岩手・宮城内陸地震での事例紹介を岩手大学の横山隆三特任教授と井良沢道也准教授にご講演頂いた。さらに、実際の画像処理された図面類を会場内および廊下に展示し、参加者に衛星画像データや 3D 画像を見てもらいながら、利用方法に関する意見交換を行った。

1. 講演

(1) 衛星画像データ“だいち”の地域実利用プロジェクトについて

岩手大学地域連携推進センターリモートセンシング実用技術開発室の横山隆三特任教授に、先生が行っている衛星画像データ“だいち”の画像処理化技術(図面化や立体視化)の概要や地域実利用プロジェクトを通じた中での利用方法・利用実績に関して、ご講演いただいた。

(2) 岩手・宮城内陸地震による土砂災害の概要と“だいち”データの利用

平成 20 年岩手・宮城県内陸地震で多くの現地調査をなさった岩手大学農学部共生環境課程井良沢道也准教授に、現地調査結果のご紹介を頂いた。さらに、先生の教室で研究された平成 20 年岩手・宮城県内陸地震における“だいち”を利用した実例の一部をご紹介頂いた。

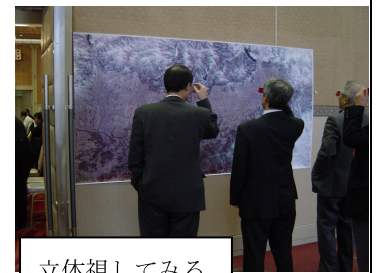
<感想>

“だいち”データの有意点は、従来の衛星画像データと比して安価であることに加え、時系列で比較できることと広範囲を多人数で見えて意見交換できることと思われる。このような技術が、岩手大学独自の技術で県発信(岩手が先進県)の技術であることはすばらしいことであると感じた。このような技術を利用していき、役立てて広く認知されるように、県内技術士も活動していく必要があると感じた。また、今回の講演は、県内技術士が“だいち”データによる画像を直に見る良い機会となり、技術認知と利用促進のきっかけとなったと思う。

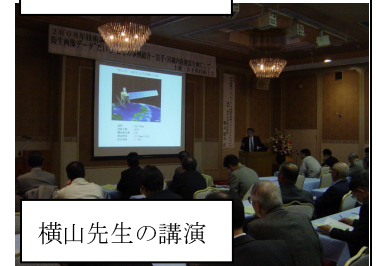
《黒墨記》



全体風景



立体視してみる



横山先生の講演



井良沢先生の講演